

別記様式第7号

公益信託ぎふNPOはつらつファンド  
実績報告書(事業助成用)

平成 19年 3月 25日

公益信託ぎふNPOはつらつファンド受託者  
三菱UFJ信託銀行株式会社 あて

住 所: 〒506-0053  
高山市昭和町3-100 コーポ松本207  
法 人 名: 特定非営利活動人 飛騨自然学園  
代表者名: 理事長 水野 瑞 夫

公益信託ぎふNPOはつらつファンドから平成18年度(前期・後期)の事業助成を受けた事業が完了しましたので、下記のとおり関係書類を添えて報告します。

記

1. 事業名

スタッフ等危機管理能力向上 事業

2. 助成の種類 該当するものに を付けてください。

|           |            |         |          |
|-----------|------------|---------|----------|
| 法人設立前事業助成 | 立ち上げ時期事業助成 | 展開期事業助成 | 人材育成事業助成 |
|-----------|------------|---------|----------|

3. 助成金額

|       |       |
|-------|-------|
| 既交付金額 | 200千円 |
| 実績額   | 200千円 |
| 差し引き額 | 0千円   |

4. 事業実施期間

平成18年7月1日 ~ 平成19年3月1日 ( 年 9か月間 )

5. 実施した事業の実績・成果

(1) 具体的な活動状況（実施日時、場所〔住所〕、対象者、参加者等）

救急救命講習機関MFAの指導者による救急救命法の養成講座を開催しました。その参加者は特定非営利活動人 飛騨自然学園と特定非営利活動人 飛騨インタープリター協会

の会員および救急救命に関心のある看護師や教育関係者になりました。

「スタッフ等危機管理能力向上」講座

1)実施日時 / 平成18年12月24日 日帰り

場 所 / 高山市清見町 ひだきよみ自然館

対象者 / 特定非営利活動人 飛騨自然学園  
特定非営利活動人 飛騨インタープリター協会  
看護師

参加者 / 20人

講義内容 / 最初に講義を受けてから、人形を使ったり受講者同士で模擬患者になっ

の

実習を行いました。今回は大人用の救急救命法を中心に行いました。



指導する講師と受講生

2)実施日時 / 平成19年2月3日 日帰り

場 所 / 高山市清見町大原 パスカル清見

対象者 / 特定非営利活動人 飛騨自然学園

特定非営利活動人 飛騨インタープリター協会

看護師

教育関係者

参加者 / 20人

講義内容 / やはり前回と同様、最初に講義を受けてから、人形を使ったり受講者同士

で  
に

模擬患者になつての実習を行いました。前回は大人用の救急救命法を中心

行いましたが、今回は子ども中心の救急救命法を学びました。



大人の人形と子どもの人形、および受講者を模擬患者に見立てての実習



真剣に人工呼吸法を実習する受講者



受講後に修了カードの授与を受ける受講者 - 1



受講後に修了カードの授与を受ける受講者 - 2

(2) 活動の成果（開催行事等の参加規模、目的の達成度、効果等）

救急救命法の養成講座は、インタープリター(自然案内人)がインタープリテーション(自然案内)

をする本格的な活動の前の冬や早春に開催することが望ましいと考えられました。今回は12月と翌年2月に行いましたので、夏から秋にかけてインタープリテーション(自然案内)をしていた直後ということもあり、救急救命法への関心度は非常に高いものでした。そのため8時30分開始～18時30分終了という長い時間にも関わらず、受講者全員が一日中集中力を欠かさずに実習を中心にした講義を受けていました。

今回このような長時間に渡る実習を中心にした救急救命法の養成講座を初めて開催しました。今回学んだ救急救命法を実際に使うことがあるということは不幸なことであり、できるかぎりそのような場面で今回の救急救命法の養成講座を活用しないことが望ましいことではあります。救急救命法の養成講座を受講したインタープリター(自然案内人)、看護師や教育関係者は緊急な場面に遭遇してもよい知識を身につけたものと考えます。

現在公的機関、たとえば駅や人の集まる美術館、公民館的建物などにAEDの装置が備え付けられています。その装置があっても、実際に仕えなければなんの意味もありません。

今回のこの救急救命法の養成講座で、その装置を有効に利用できる人材が育ったことは、たいへん意義のあることだと実感させられました。

(3) 今後の課題

今回の救急救命法の養成講座は当初の計画では、初夏から盛夏にかけて海佐する予定でしたが、講師の都合やインタープリター(自然案内人)の都合により、冬の時期に開催することになってしまいました。ですが今回の開催時期はかえってよかったと思っています。それはインタープリテーション(自然案内)をする本格的な活動の前の冬や早春に開催することになったこと、夏から秋にかけてインタープリテーション(自然案内)をしていた直後ということもあり、救急救命法への関心度は非常に高くなったためです。

そして今回は特定非営利活動人 飛騨自然学園と特定非営利活動人 飛騨インタープリター協会の会員が中心になり、救急救命に関心のある看護師や教育関係者の参加になりましたが、今後はさらに広く公募したり、また同じ講習でも定期的に受講することで緊急時に対応できる人材を育成していくことが重要だと痛感しています。またさらに高度な救急救命法養成講座を開催し、高度な救急救命法を身につけたインタープリター(自然案内人)を養成していくことが重要だと思っています。